

伝統技術を継承し、100年後の人類まで届くモノづくり Vol.2

合同会社 ELEMUS（岡崎市）

取組概要

- 所在地：岡崎市明大寺町西郷中 39-79
- 代表社員：ダントーホールディングス株式会社 職務執行者 小原 淳
- 設立年：令和元年6月
- 雇用者数：常時雇用2名 臨時雇用3名



サスティーモ®

事業者概要

- 【生産（1次）】 漆の木の育種・栽培
- 【加工（2次）】 「サスティーモ®」（木粉と漆を原材料とする100%バイオマス成形原料）の製造。
「サスティーモ®」の粉体を圧縮成形（加熱・加圧）。その後、レーザー加工。
- 【販売（3次）】 「サスティーモ®」の成形製品の販売。木粉販売と木材チップの微粉碎加工の請負。

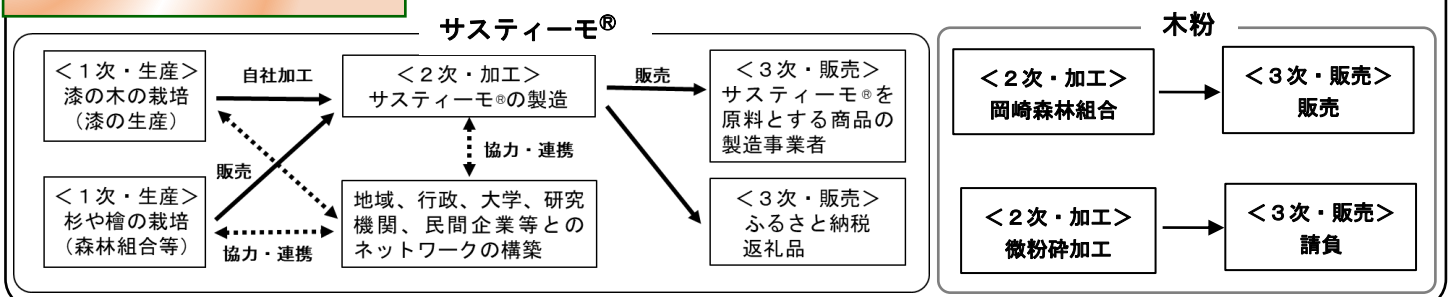
取組までの経緯

- 東京都立産業技術センターが約20年をかけて構築した「サスティーモ®」の特許技術を継承し、独自の製造方法の特許を取得した。
- 岡崎市は総面積の6割が森林を占め、かつては日本三大漆産地であったことから、この地域で多様な事業者と連携し、SDGsやカーボンニュートラルの実現に向けて、地域資源（木材、漆）を活用していく。

取組の特徴、強み

- 「漆の木を植える→育てる→加工する→使う→漆の木を植える」の循環サイクルで、100年後の世代の人たちが快適に過ごせる社会を見据え、地球温暖化や気候変動といった環境問題、伝統文化の衰退、地方の過疎化、山林問題など、現代が抱える様々な課題を少しずつでも解決できるよう取り組んでいる。
- 「サスティーモ®」の製造方法の特許を保有。日本のみならず、世界5カ国で特許を取得済み。
- 岡崎漆プロジェクトをはじめとした関係機関との連携の充実。
- 木材チップの微粉碎加工では、少量の地域産材の木粉を求めるニーズに対応できる。

ビジネスモデル・連携図



取組の課題

- 新規事業であるため、既存顧客、既存商流がない。また、「サスティーモ®」の使用用途が明確でなく、これまで漆器以外の商品開発が進んでいなかった。
- 「サスティーモ®」やその成形製品について、知られていない。

課題解決の方法

- 「サスティーモ®」の成形製品モデルを国内外の商談会で展示し、新規顧客、新規サプライヤーを獲得する。併せて、「サスティーモ®」が持つ抗菌性、抗ウイルス性を活用した商品開発を提案し、共同開発する企業を募集し、ブランディングしていく。
- 岡崎市のふるさと納税返礼品として登録。また、地元の祭りに出店し、一般の方に対しても取組を知ってもらい、「サスティーモ®」やその成形製品の価値を理解してもらう。

取組の効果

売上高：取組前の 5.7 倍
雇用者数：臨時雇用 0 名→臨時雇用 3 名

活用した支援策

農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション推進支援事業)

今後の展望

- 海外輸出も視野に入れ、販路開拓に力を入れていきたい。
- 「サスティーモ®」やその商品を広く知ってもらうこと。
- 岡崎発の漆の木の生産者を県域に広め、愛知県産の漆のブランド化を目指す。
- 山村・耕作放棄地対策につながる取組としたい。
- 漆でかぶれないオペレーションを管理し、雇用者確保につなげる。

取組者のコメント

サスティーモ®を通して、海洋汚染や SDGs に関していろいろと考えていただく機会にしてほしい。

1人1人が自分の考えや知見の中で、物事をしっかりと捉え、選択してほしい。

6次産業、輸出は伸び代があり、可能性を感じている。ビジネスをしている人には面白い。

